

# 鶴見区教育研究会

## 1 研究主題 「社会に開かれた教育課程の創造・実践」

～主体的・対話的で深い学びを実現する授業力向上と研究交流の広がりをめざして～

## 2 研究主題について

市小教研のテーマ実現に向けて、区としてベクトルを合わすべき方向性は「主体的・対話的で深い学びの授業実現」である。各教科等の特性に応じた見方・考え方を働かせて主体的に学習にかかわり、対話的な学びを進めることで学びの質が高まり、深い学びを実現することができる。

また、今年度は、年度スタート時の臨時休業、新型コロナウイルス感染拡大の影響によるコロナ禍に対応した教育課程の再編成を余儀なくされた。その中で改めて各学校での「カリキュラムマネジメントの推進」の必要性を実感した。教科等横断的なカリキュラム再編、感染対策を考えた上で社会に材を求めた学びの展開等、カリキュラムを工夫し、コーディネートすることが学びの質を高めることとなる。

これらのことを区で共有したり、情報交換したりすることが各学校の取組に還元できるとともに、各教科等における研究推進と情報発信に繋がると考え、上記の研究主題を設定した。

## 3 研究方法（コロナ禍で工夫したこと含めて記入）

○6月第一回目の研究会開催に向けて人数制限を行った。また、区小教研として全教科等研究部に消毒用除菌ペーパーを配布し、感染予防に努めた。

○7月以降は、人数制限を緩和したが、できる限り各校代表者が参加し、各校で情報共有するように努めた。

○オンライン開催が可能な月は、オンライン開催に取り組んだ(各教科等研究部の実態に応じて)。

※集合型研究会の方が、より内容が充実するという声が多かった。

○実技研修やグループワークを行う際に事前に人数制限を行った。

○複数教室の使用や体育館の利用等、より広い空間を使って研究会を開催するよう心掛けた。

## 4 年間活動(事業)報告

○10月 鶴見区児童音楽会 ※中学校ブロックごとの取組

○11月 鶴見区巡回図工展 ※区総合展を中学校ブロックごとでの巡回展に変更した

○2月 鶴見区合同学習発表会(特別支援教育研究部) ※中学校ブロックごとの取組

## 5 研究の成果と課題(含 第二次研究大会)

○授業を伴う研究会(一斉授業研究会)ができなかったこと、教科等によっては学習内容に制約があり、実践提案が難しかったことが大きな課題であった。授業力向上は、区小教研が担う役割がとても大きいので、今年度は課題として残った。

○今年度だからこそできた講演会や研修会の充実は、自分たちの力を高めるためのよい機会となった。今後も年間を見通して意図的に計画していきたい。

○区主催の行事等のあり方を見直すきっかけとなった。来年度以降の行事等の精選や企画・運営の方法を考え、児童にとって価値のある教育活動を実践していく。

○オンラインを活用した研究会が常態化してきた。今後は有効活用することで負担軽減に繋がっていききたい。集合形態とオンラインを組み合わせるによりよい研究活動を推進していく。